柴田南雄 生誕 100 年・没後 20 年記念演奏会
山田和樹が次代につなぐ～ゆく河の流れは絶えずして～

初めて柴田南雄さんの作品に触れた時、「人生損していた」と本気で思いました。かつての僕のように、柴田さんのことをよく知らない若い方たちもたくさんいるでしょう。何とかしてその良さを伝えようとするのですが、残念ながら言葉では伝わらないもどかしさがあります。実際に柴田ワールドを"体感"しない限り、無理なのでしょう。ということで、メモリアルイヤーにとっておきの演奏会を企画しました。何も知識はいりません。ただ、柴田ワールドの織り成す時間と空間に身を浸していただければ。必ずや発見があるはず、と豪語できる自信をもってこの演奏会に臨みます！！

実行委員長　山田和樹

【発起人】

代表　山田和樹（指揮者）

池辺晋一郎（作曲家）　**一柳慧**（作曲家）　**海老沢敏**（音楽学者）

小澤征爾（指揮者）　**佐野光司**（音楽学者）　**堤剛**（サントリーホール館長・チェロ奏者）

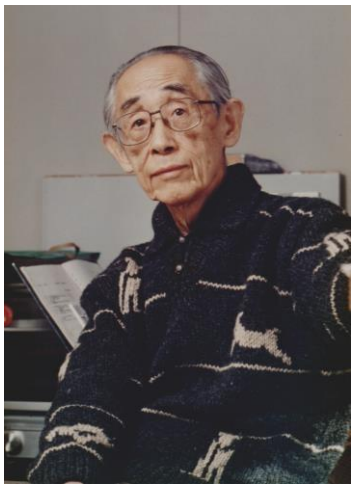
田中信昭　（東京混声合唱団　桂冠指揮者）　**徳丸吉彦**（音楽学者）

平井俊邦（日本フィルハーモニー交響楽団理事長）

福井直敬（武蔵野音楽学園理事長、武蔵野音楽大学学長）

船山隆（音楽学者）**前田昭雄**（ウィーン大学名誉教授）**湯浅譲二**（作曲家）　以上、50 音順

柴田南雄の生誕 100 年、没後 20 年



柴田南雄は、作曲家・音楽学者・音楽評論家として活躍しただけでなく、英才教育で知られる桐朋学園の設立、軽井沢現代音楽祭を開いた「二十世紀音楽研究所」の設立等の中心的役割を果たしました。音楽評論や NHKFM 放送での解説でも音楽ファンにも知られた存在で、中でもバイロイト音楽祭の放送の解説が語り草となっていたり冨田勲さんをいちはやく評価するなど、幅広い知識と先見の明を持ち合わせ広く音楽の啓蒙に尽くしてきました。

作曲家としては《追分節考》以降の**シアター・ピース**で、日本民謡に基づく新たな作曲の方法論を確立し、今日の創作に大きな影響を与えています。こうした業績に対し 1992 年に文化功労者として顕彰されました。

《ゆく河の流れは絶えずして》27 年ぶりの演奏

《ゆく河の流れは絶えずして》は、昭和 50 年記念作として中日新聞が委嘱した作品です。平安時代の今様から古典、ロマン派、12 音技法までさまざまな様式を混ぜ合わせた世界初の音楽です。シュニトケに先駆けて「多様式主義（ポリスタイリズム）」を実践していたことになります。しかも会場全体を使って即興的に演奏されるシアター・ピース。サントリーホールがどのような場となるのか、どうぞご期待ください。

フルオーケストラと合唱という大編成を必要とするため、日本の音楽史においても重要な位置をしめるはずの曲でありながら、1975 年名古屋フィルハーモニー交響楽団により初演された後、1989 年の東京都交響楽団での再演の後は、全曲が再演されることはありませんでした。

この周年の年に演奏しなければ、もう 2 度と再演のチャンスはないかもしれない、と世界を駆け巡るマエストロ山田和樹が一念発起したのがこの企画。公演の 11 月 7 日は、1975 年にこの曲が初演された日と同じ日付という偶然も。

創立 60 周年を迎える日本フィルと東京混声合唱団とともに

追分節考》東京混声合唱団

正指揮者を務める日本フィルハーモニー交響楽団、音楽監督そして理事長も務める東京混声合唱団はともに今年 60 周年を迎えています。ここに武蔵野音楽大学合唱団が加わり、戦後日本史における巨人・柴田南雄作品の魅力と意義を引き出し、次世代への遺産としたいという願いを込めて、新たな地平を拓いたシアター・ピースを皆さまにお届けいたします。山田マエストロがさまざまな日本人作品を研究していく中で出会 った《ゆく河の流れは絶えずして》は、出会った瞬間に「これは残さなければならない」と強く思った作品。《追分節考》は柴田南雄氏による 20 作品に及ぶ合唱のためのシアター・ピースの第一作。長野県民謡を素材としています。スコアは存在せず、指揮者が即興的に曲を構成します。そして《ディアフォニア》は 1979 年の作品、山田和樹と同じ年に生まれた作品！会場となるサントリーホールも開館 30 周年。さまざまなアニヴァーサリーイヤーが重なった日本の音楽界を記念すべき公演です。

鴨長明没後 800 年

奇しくも鴨長明は 1216 年没、つまり没後 800 年になります。《ゆく河の流れは絶えずして》のテクストの「方丈記」には、安元 3 年（1177 年）の大火災、治承 4 年（1180 年）の大竜巻、養和年間（1181 年～1182 年）の飢饉、さらに元暦 2 年（1185 年）の大地震など、自らが経験した天変地異に関する記述を書き連ねています。

柴田南雄は戦前・戦中・戦後を体験した作曲家であり、さらに今日の東日本大震災、熊本地震、大分地震他、不安定な経済社会等今の時代と重なるところも多く、800 年という年月を超えて現在と通じるものが多々あることも興味深いところです。

柴田南雄（1916 年 9 月 29 日―1996 年 2 月 2 日）

1916 年東京生まれ。東京帝国大学理学部植物学科、同文学部美学美術史学科卒業。作曲を諸井三郎に師事。1946 年「新声会」を入野義朗らとともに発足、作品を発表しはじめる。ロマン主義的作風から、12 音技法やミュジック・セリエル、不確定性の前衛的な作風、日本民謡と民俗芸能を根底にしたシアター・ピースなどを生涯現役で創作。1948 年「子供のための音楽教室」開設に貢献したほか、桐朋音楽大学、お茶の水女子大学、東京芸術大学、放送大学などで教鞭をとる。1957 年吉田秀和らとはじめた「二十世紀音楽研究所」で国際的な視野をもった啓蒙活動に尽力するなど、放送、新聞、音楽ジャーナリズムを通して洋の東西を問わない洞察と知的刺激にあふれた評論活動を展開した。1973 年尾高賞、82 年サントリー音楽賞受賞。92 年文化功労者に選ばれる。

▽公演概要

＊日　程：2016 年 11 月 7 日（月）19 時開演（18 時 30 分～　マエストロのプレトーク）

＊会　場：サントリーホール

＊出　演：山田和樹（指揮）日本フィルハーモニー交響楽団　東京混声合唱団　　武蔵野音楽大学合唱団　関一郎（尺八）

＊曲　　目：柴田南雄：《ディアフォニア》～管弦楽のための no.62（1979）

柴田南雄：追分節考 no.41（1973）　※無伴奏合唱曲

柴田南雄：交響曲《ゆく河の流れは絶えずして》no.48（1974 ）※管弦楽と合唱

＊入場料：S席 7,000 円 A席 6,000 円 B席 5,000 円 C席 4,000 円　学生席（100 枚）1,000 円（25 歳以下　学生証保有者）

主催　柴田南雄生誕 100 年・没後 20 年記念演奏会実行委員会

平成 28 年度（第 71 回）文化庁芸術祭参加公演

助成　公益財団法人 朝日新聞文化財団/公益財団法人 三菱 UFJ 信託芸術文化財団/公益財団法人 野村財団
アーツカウンシル東京（公益財団法人 東京都歴史文化財団）

協賛　サントリーホールディングス株式会社

協力　サントリーホール/日本フィルハーモニー交響楽団/東京混声合唱団/武蔵野音楽大学

～ご寄付のお願い～

「私財を投げ打ってでも今やらなければならない」、という山田和樹さんの熱い想いからコンサート実現の夢へ向けて、プロジェクトがスタートいたしました。

関係各位の多大なる協力が必要なことは言うまでもなく、さらに広く皆さまのご理解とご協力がどうしても必要です。今の音楽界の原点のひとつであろう柴田南雄先生の功績をこの周年を機にもう一度見つめなおし、音楽の意義や楽しさ、素晴らしさを「知の巨人」と評された柴田先生のお力をお借りしながら改めて皆さまと共に体感し、これからの音楽界のひとつの形を作ることができればと願っております。

集客が難しいといわれる現代日本人作曲家の公演ですが、是非お力を賜り、 満席のサントリーホールで新しい時代の第一歩をご一緒いただきたく、皆さまのご厚情をお願い申し上げる次第でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

※ご寄付：1 口 5,000 円
※2 口につき演奏会の招待券を 1 枚進呈させていただきます。

お振込み先：
口座名義：柴田南雄演奏会実行委員会
みずほ銀行四谷支店（036） 普通 1376838

※お振込み手数料につきましてはご負担となりますこと、恐縮でございますがご了承お願いいたします。
※チラシの配布等ご協力いただける場合は下記にご一報ください。
※団体購入をご検討いただける場合は割引もございますのでご相談ください。

▽寄付および公演に関するお問い合わせ

柴田南雄生誕 100 年・没後 20 年記念演奏会実行委員会
東京都新宿区西早稲田 2-3-18　東京コンサーツ気付（垣ケ原）
電話 03-3200-9755　E-mail shibata-centennial@tokyo-concerts.co.jp

▽組織：

実行委員長：山田和樹
実行委員
事務局長：加納民夫（元NHK音楽番組部長、元NHK交響楽団常務理事）
事務局次長：八反田弘（武蔵野音楽大学演奏部長）
書記：水田堯（元NHK音楽番組部エグゼクティブプロデューサー、上野学園大学客員教授）
渉外：仙道作三（作曲家・柴田南雄門下）
会計：垣ケ原靖博（東京コンサーツ会長）

※この件に関するお問い合わせ
東京コンサーツ気付 柴田南雄生誕 100 年・没後 20 年記念演奏会実行委員会（加納・水田）
電話 03-3200-9755 E-mail shibata-centennial@tokyo-concerts.co.jp
日本フィルハーモニー交響楽団
電話 03-5378-6311　Email：sugiyama@japanphil.or.jp（広報部：杉山・兵（ぴん））

山田和樹　Kazuki Yamada　指揮者

1979 年神奈川県生まれ。東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。第 51 回ブザンソン国際指揮者コンクール（2009 年）で優勝後、BBC 交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、代役でパリ管弦楽団を指揮、すぐに再演が決定する。2012 年 8 月には、小澤征爾の指名代役としてサイトウ・キネン・フェスティバル松本で指揮し、絶賛された。日本国内主要オーケストラ、ヨーロッパを中心に世界の主要オーケストラでの客演を重ねている。

日本フィルとは、Bunkamura で行われている 3 年間全 9 回にわたる『山田和樹 マーラー・ツィクルス』が話題となっている。

2010 年横浜文化賞文化・芸術奨励賞、2011 年、出光音楽賞受賞。2012 年、渡邉曉雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、文化庁芸術祭賞音楽部門新人賞受賞。

現在、モンテカルロ・フィル芸術監督兼音楽監督、スイス・ロマンド管首席客演指揮者、日本フィル正指揮者、横浜シンフォニエッタ音楽監督、仙台フィルミュージック・パートナー、オーケストラ・アンサンブル金沢ミュージック・パートナー、東京混声合唱団音楽監督兼理事長。

著書に『山田和樹とオーケストラのとびらをひらく』（アリス館）。音楽の友に『私的音楽論考』、共同通信社に『世界を翔るタクト』連載中。

ベルリン在住。 Twitter@yamakazu_takt

日本フィルハーモニー交響楽団　Japan Philharmonic Orchestra

1956 年に故・渡邉曉雄が中心となって創立。今年 6 月に 60 周年を迎えた。9 月にピエタリ・インキネンを首席指揮者に迎え新たなステージに歩を進める。桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹、ミュージック・パートナー西本智実をはじめとする充実の指揮者陣を中心に演奏を行っている。

東京都杉並区に拠点を置き、“音楽を通して文化を発信”という信条に基づいて、「オーケストラ・コンサート」、「エデュケーション・プログラム」「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱を打ち立て活動を展開している。2011 年 4 月より、聴衆からの募金をもとにボランティア活動「被災地 に音楽を」を開始、 2016 年 8 月末までに約 197 公演を実施している。

東京混声合唱団　The Philharmonic Chorus of Tokyo

1956 年、東京芸術大学声楽科の卒業生により創設された日本を代表するプロ合唱団。コンサートの開催を演奏活動の中心に置き、広範な分野の合唱作品の開拓と普及に取り組んでいる。

東京、大阪での定期演奏会、各地での特別演奏会、内外のオーケストラとの共演やオペラへの出演、青少年を対象とした鑑賞音楽教室、海外公演を含む年間 200 回の公演のほか、レコーディングやテレビ、ラジオへの出演がある。レパートリーは、創立以来行っている作曲委嘱活動で生まれた 207 曲を数える作品群をはじめ、内外の古典から現代作品までと全合唱分野を網羅している。2007 年、サントリー音楽賞、中島健蔵音楽賞を受賞。2016 年、創立 60 周年を迎えた。音楽監督は山田和樹。

武蔵野音楽大学合唱団

武蔵野音楽大学合唱団は、武蔵野音楽大学声楽専攻学生を中心とした混声合唱団で、合唱界の旗手・栗山文昭氏の指導のもと、古典から現代曲までの作品を研究、発表し続けている。これまで、学内各種のオーケストラやアンサンブルとの共演はもとより、NHK交響楽団 ・読売日本交響楽団ほか日本の代表的オーケストラとの共演を毎年行うほか、世界の合唱祭等での招待演奏なども行い、高い評価を得ている。

柴田南雄 生誕 100 年・没後 20 年記念演奏会　Ｆａｃｅｂｏｏｋページ開設しました！！

https://www.facebook.com/shibataminao/